

「表現運動」を指導する際の困難さについて

—千葉県小学校教員の調査から—

寺山由美

千葉大学・教育学部

About difficulty in teaching of “expression movement” —From investigation of primary school teachers of Chiba—

TERAYAMA Yumi

Faculty of Education, Chiba University, Japan

現職の小学校教員が、体育における「表現運動」の指導場面で困難と感じていること、また、指導により学習者がどうなったと捉えているかを調査し、今後、教員がよりよい「表現運動」指導ができるようになるための、指導者養成の要点を検討した。その結果、「表現運動」領域の学習内容の明確化、指導言語などの指導法や教材のさらなる開発、教員が学習者の活動を捉える時の観点などが今後の研究課題としてあげられた。

キーワード：「表現運動」(expression movement) 指導における困難さ(difficulty in teaching) 小学校教員(primary school teachers) 舞踊教育の課題(problems of dance education)

はじめに

現行の体育科学習指導要領は、「心と体を一体としてとらえる」ことを重視して改訂された。昨今、子ども達の「心」と「体」がうまく繋がっていないのかのような、震撼させられる事件が多発している。これらは、子ども達が想像力を欠いた身体感しか持ち合わせていないためと推察できる。このような現状の中、子ども達の身体を扱う「体育」の役割は、決して小さなものではない。

その中でも、体育における「表現運動・ダンス」は、その特性から子どもの「心」と「体」を丸ごととらえることができる領域として期待されている(片岡2000)。

「表現運動・ダンス」は、勝敗がない、個性を生かせる、友達との一体感が味わえるなど、他のスポーツ領域と違う特性が多くみられる(村田1991)。「表現運動・ダンス」には、他のスポーツ領域では網羅できない、身体教育に必要な不可欠な要素がたくさん存在しているといえる。

これらの「表現運動・ダンス」の特長は、指導現場に立つ大多数の教員もわかっていることであると思われるが、一方で「どのように指導したらよいかかわからない」という声をよく耳にする。例えば、小学校教員の「表現運動」指導の実態について調査した森らの報告(1981年)では、「運動領域の中でも特に指導しにくい」とする結果がでている(森1981)。また、安藤らは、徳島県的小学校教員を対象とした1991年と2001年の意識調査において、教師の9割以上が「児童にとってダンス(表現運動)は大切」と回答しているが、「ダンスを体育の中で重視しているか」という質問に対して、「重視していない」と回答した者は1割にも満たなかった。「重視していない」理由として、「自分に体験がない」「周りにやる

人がいない」「指導力不足で、気軽にやれない」「うまく指導できない」等があげられている(安藤2003)。

「表現運動・ダンス」に限らず、体育授業全般において、指導者が体育の指導意義について理解していても、実際には授業を実施しない、もしくは、できない場合が少なくないと聞く。余談ではあるが、筆者が本校で担当している「体育科教育法」(3年生対象)において、履修者全員に行っている体育に関する調査では、「体育は好きか、嫌いか」という問いに対し、毎年、3割位の学生が「体育が嫌い」「もうやりたくない」と回答するが、「小学校に体育は必要か」という問いに「必要ない」と回答する学生は、今までに一人もいなかった。自分自身は、体育に対して苦手意識や嫌悪感を抱いていても、教員という立場から考えると、体育は必要であると考えてるのであろう。同じように大多数の教員は、体育の意義を理解しているものと思われる。しかしながら、様々な要因によって体育実践がなされていないとすれば、学習者にとっても指導者にとっても辛い問題である。

特に、「表現運動・ダンス」は、指導しにくいと多くの教員が感じる領域であり、「意義を理解できても指導できない」状況に陥る可能性が高いと考えられる。実際に、現場の教員がどのような授業を行い、何につまずいているのかを把握することで、今後の舞踊教育の課題を浮き彫りするための手がかりが得られると考える。

そこで、本論では、現職の小学校教員に焦点をあて、小学校における「表現運動」の指導場面で困難と感じていること、また、指導により学習者がどうなったと捉えているかを調査し、今後、どうしたら小学校教員がよりよい「表現運動」指導ができるようになるのか、指導者養成の要点を探求するものである。

方 法

現職の小学校教員を対象に、質問紙法を用いて調査を行った。調査の回答は、自由記述を中心に用い、「教員の声」を聞くことを目的に行った。調査の結果は、数値ではなく、教員の記述した内容を検討するものとした。

調査期日：① 平成15年8月27日

② 平成16年8月9日

対象：千葉県小学校教員 139名（表1参照）

表1 対象者内訳

		20代	30代	40代	50代	
男性	①	3	9	20		
	②	2	3	5		男性:42
女性	①	3	32	25	1	
	②	5	11	20		女性:97
小計		13	55	70	1	総計:139

結果および考察

1 「表現運動」指導の実施状況について

【「表現運動」を実践されていますか】という問いに対して、5段階評価で回答してもらった。結果は、〈表2〉の通りである。

実践している（「とともしている」「ややしている」と回答した教員は全体で42%であり、反対に実践していない（「していない」「ややしていない」と回答したのは44%であった。このことから、実践をしている教員としていない教員の二極化が伺える。

2 「表現運動」授業の困難さについて

2-1 結果

【「表現運動」の授業を行う際、困っていることはありますか】という問いに対して、自由記述で回答してもらった。結果の一覧は、〈表3〉の通りである。

指導者が、表現運動の指導場面で困難だと感じている事柄を分類すると、〈図1〉のようになる。まず、大別すると、「授業中に感じていること」「授業以外の時間に感じていること」に分類できる。もちろん、全て授業の中で感じた困難点ではあるが、「授業中に感じていること」は授業中の学習者と起こっている事柄に焦点があり、「授業以外の時間に感じていること」は授業の前後に起こっていることや感じていることに焦点がある。

さらに細かく見てみると、「授業中に感じていること」

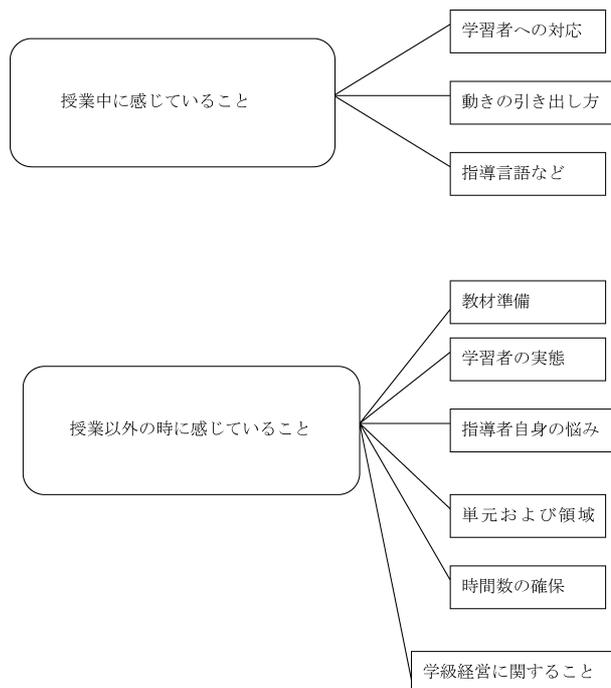


図1 困難だと感じている事柄の分類

は、「学習者への対応」「動きの引き出し方」「指導言語など」があげられ、「授業以外の時間に感じていること」は、「教材準備」「学習者の実態」「指導者自身の悩み」「単元および領域」「時間数の確保」「学級経営に関すること」「その他」があげられる。

〈表3〉には、記述された数も一覧にした。今回は、量的な検討を試みないので、参考程度でしかないが、「授業中に感じていること」「授業以外の時間に感じていること」は、ほぼ同じくらいずつ記述があった。

まず、「授業中に感じていること」の中では、「恥ずかしがる子の指導」や「心を閉じている子に工夫がある」などの「学習者への対応」が多く記述されていた。また、さらに具体的に「子どもたち自身からの表現運動として動きを引き出すことが難しい」や「児童がどうやったら乗ってくるのかわからない」など、学習者の動きやイメージの発展に言及している「動きを引き出す」ことに関することや、「言葉かけの難しさ」など「指導言語」について困難に感じている教員もみられた。

次に、「授業以外の時間に感じていること」の中では、「選曲」や「テーマ（題材）の設定」などの「授業準備」に関するもの、「『表現運動』で何を指すのか不明」「授業内容の構成の仕方がわからない」などの「領域および単元」の根本に関わることの記述が多くみられた。また、指導者自身が「表現運動」に対して苦手意識があると見受けられるような「指導方法がわからない」「自分が照

表2 「表現運動」を実践されていますか

	とともしている	ややしている	どちらでもない	ややしていない	していない	無回答	小計
①	5	27	14	30	15	2	93
②	4	21	4	10	6	1	46
①+②	9	48	18	40	21	3	139
	7%	35%	13%	29%	15%	2%	

「表現運動」を指導する際の困難さについて

表3 「表現運動」の授業を行う際、困っていることはありますか

No	回 答	回答数	カテゴリ
1	イメージのわからない子への指導	1	対応
2	教師と共に動けない	1	対応
3	高学年になると意欲的にやらない	13	対応
4	高学年になると男女一緒に難しい	1	対応
5	心が閉じている子に工夫がいる	1	対応
6	個人差がある	5	対応
7	子どもが思うように表現しようとしてくれない時	1	対応
8	創作することに対してあまり意欲を感じない	1	対応
9	楽しく運動できる子としない子に分かれる	1	対応
10	楽しく活動している子を冷ややかな目で見ている子がいる	1	対応
11	恥ずかしがる子の指導（対応）が難しい	13	対応
12	リズム感のない児童に教える時	1	対応
13	イメージを膨らますことはできるが、動きにつながらない	1	引き出し
14	決まった踊りは楽しそうに踊るが、創作になると苦手な子もいる	1	引き出し
15	子どもが自由にのびのびと動けるまでに時間と手間がかかり、教師の力量が問われてしまう	1	引き出し
16	子どもがなかなか本気になって取り組まない	1	引き出し
17	子どもが乗ってこない	1	引き出し
18	子どもたち自身からの表現運動として動きを引き出すことが難しい	1	引き出し
19	児童がイメージを具体化するまで時間がかかる	1	引き出し
20	児童が動けるようになるまで時間・準備（音楽）などかかる	4	引き出し
21	児童がどうやったら乗ってくるのかわからない	7	引き出し
22	多様な動きが生まれてこない	2	引き出し
23	男子の照れ	1	引き出し
24	なりきらせることの難しさ	1	引き出し
25	発想が引き出しにくい	1	引き出し
26	表現の質が高まらない時	1	引き出し
27	物の現象面を表現することは用意であるが、内面までの動きを引き出すことが難しい	1	引き出し
28	課題のイメージ化	1	指導
29	言葉かけ	13	指導
30	時折、思いがイメージできず、言葉に頼ってしまう	1	指導
31	選曲	4	準備
32	テーマ（題材）の設定	13	準備
33	場の設定	1	準備
34	リズムダンスで使う曲や表現で使う効果音などの上手な使い方について	1	準備
35	リズムダンスに適した音楽を知りたい	1	準備
36	子どもが体育の学習だと認識していないので、とても嫌がる	1	実態
37	素直に育ってきた子は伸び伸びと表現できるが、家庭的に問題のある子や表情に影のある児童は素直に表現するのに時間がかかる	1	実態
38	男子の動きがかたい	1	実態
39	表現に対して二の足を踏む子どもが少なからずいて難しい	1	実態
40	動き方がわからない	1	指導者
41	運動会の振付に困る	1	指導者
42	教師にパワーがないとできない	3	指導者
43	児童が自主的に行うようにするにはどうしたらよいか	1	指導者
44	指導方法がわからない	7	指導者
45	自分ができない	1	指導者
46	自分が照れてしまう	1	指導者
47	自分自身がなかなか心身を解放できずどうしても固くなってしまふ。苦手意識が抜けない。	1	指導者
48	日頃馴染んでいないので、女性の先生に任せてしまう	1	指導者
49	評価の観点が難しい	6	指導者
50	「表現運動」で何を指すのか不明	1	単元・領域
51	運動量が少なくなってしまう	1	単元・領域
52	授業内容の構成の仕方がわからない	2	単元・領域
53	導入の仕方	1	単元・領域
54	何を教えてよいかわからない	2	単元・領域
55	表現運動自体の効果に疑問。ダンス等は別だが、手足をバタバタさせることが自己表現に結びつくとは考えづらい	1	単元・領域
56	マンネリ化してくる	1	単元・領域
57	めあて1からめあて2への移り変わり	1	単元・領域
58	模倣と表現の区別	1	単元・領域
59	運動会の演目に当ててしまっている	12	時間割
60	時間数の確保	6	時間割
61	学級経営によるものが大きい	1	学級
62	グルーピング	1	学級
63	グループ活動が上手くいかない時がある	1	学級
64	学校・学級によって指導に力を入れていないため、学習に系統性がない	4	その他
65	学校で決まった踊りがあり、決まりきった動きしか教えられない	1	その他
66	無し	5	

れてしまう」といった「指導者自身に関する事」も多数あげられた。

2-2 考察

① 学習内容の不明瞭さ

全体的みると、教員には「表現運動」では「何を教えるのか」、「学習者にどうなって欲しいのか」が不明瞭

であることがわかる。筆者は、「表現運動」の学習内容があいまいであることを拙稿にて述べた（寺山2005）。普段、「表現運動・ダンス」は目にするのが少ない馴染みの薄い運動であり、「表現」という分野であるからこそ、現職教員に学習内容を明確に理解してもらえよう、さらに研究を進めなければならない。

② 児童の反応と指導者の対応

体育の授業では、授業中に変化する学習者の身体や心の状態を捉え、臨機応変に学習者を導く能力が要求される。特に、「表現運動・ダンス」の指導では、このことは重要であるといわれている。「児童がのってくる」「児童をなりきらせる」など、学習者がある空間に導く必要がある。村田は、「ダンス学習では、その心とからだをありのままに出しきった時、楽しいという実感がより確かなものになるから、本人さえも気付かずからだのうちに潜在している多くのパワーや可能性が授業で期せずして現れる」と述べている(村田2005)。「心とからだをありのままに出す」ことができる空間を指導者が作ることができるかは、指導者が「指導法」を知っていることとは別の技術が要求される。もちろん、研究されてきた「表現運動」の「指導法」は、学習者の反応を分析して作成されたものであるから、それらの「指導法」をなぞれば、ある程度授業は成立するだろうが、やはり個々の教師が「今」「目の前」にいる学習者の状態をすばやく捉えて、授業の舵を操作できる技術を必要とするだろう。その意味では、教員がなるべく多くの実践を通して得て欲しい技術ともいえる。

今回、学習者の反応を捉えた記述がとて多く、興味深い。指導の始まりは、まずは学習者の反応を敏感に感じることとも考えられる。指導者が学習者の活動をどのように捉える目を持っているか、この点を検討する必要があるだろう。

③ 指導言語

「指導言語がわからない」とはっきり記述した教員は13名であるが、動きやイメージも言語で導くことが多いことを考えると、多数の教員が指導言語について困難であると感じていることになる。「表現運動」における、指導言語の問題は古くて新しい問題である。「動き」と「イメージ」をつなげた時に「表現運動」になることを考えると、学習者の心とからだに響く言語の解明が必要である。

④ 教材の準備

現在では、書籍やインターネットなど、様々な媒体を通して「表現運動」の教材が手に入るようになった。しかし、今でも教員にとっては準備に気を遣う領域であるようだ。他の領域も含めた体育授業全般にいえることではあるが、特に「表現運動・ダンス」では、他教科のように教科書のようなテキストがない。そのことが学習内容を曖昧にする要因であるとも考えられる(寺山2005)。つまり、テキストがないことが、教材準備を困難にさせているとも考えられる。「表現運動」の教材開発はさかに行われているが、さらに検討していかなければならないし、多くの教員に発信していかなければならないだろう。

⑤ 授業時間の確保

小学校では、担任の教員によって、扱う領域に差があるとよく耳にする。今回の調査でも、そのことが浮き彫りになった。まず、先述した通り実践していない(「していない」「ややしていない」と回答したのは44%、つまり139名中61名の教員が「表現運動」の指導を行っていない。「どちらでもない」とした18名を加えると、約

半数の教員の学級では「表現運動」を年間で行わず、そのまま児童を修了させていることになる。「学校・学級によって指導に力を入れていないため、学習に系統性がない」(4名)と指摘した教員がいたことから、現場での状況が伺える。

また、「運動会のダンス」を「表現運動」の代わりとみなしている学校も多い。体育の時間数削減など時間数の確保も大変であると書いている教員もいた。

⑥ 「子どもが……〇〇ない」

記述を分類すると、二つのタイプの教員がいた。一つは、「自分が指導できない」「自分がわからない」と指導者である自分に問題があると書くタイプと、反対に「子どもがやらない」「子どもに意欲がない」と学習者である児童に問題があると書くタイプである。

昨今、子どもの環境は変化していて、かつての児童のような心身を持ち合わせた児童は少なくなっているだろう。しかし、学習者は指導次第で、かなり変化するのも事実である。「教師にパワーがないとできない」という記述もみられたが、「表現運動」の指導は、学習者の「今」を捉える必要があり、生きた空間を作らなければならない。そのような意味では、指導者は気を抜くことができない、パワーを必要とする、疲れる領域ともいえる。しかし、だからこそ、成功した授業の後には、学級がまとまり、学習者が成長する可能性があるといえよう。

次に、「表現運動」による学習者の変化について考察する。

3 「表現運動」授業後の学習者の変化

3-1 結果

【「表現運動」の授業を通して、児童はどのようになることが多いですか】という問いに対して、自由記述で回答してもらった。結果の一覧は、〈表4〉の通りである。

まず、自由記述を大別すると〈図2〉のように分類できる。まず、大きく分けると、学習者に対して「肯定的な反応をした」もしくは「肯定的に変化した」のような肯定的に捉えた記述と、「否定的な反応をした」のような否定的にみた記述である。さらに各々は、授業中の学習者を捉えたものと、授業外での学習者を捉えたものがあつた。

3-2 考察

① 学習者の表情や人間関係が良くなる

授業外での学習者の変化については、肯定的な記述しかみられなかった。学習後に「表情が柔らかく(明るく)なっていく」と学習者の表情が良くなることを記述した教員は10名いた。「これを機に他の教科・活動でも進んで表現しようとする姿勢が見られる」など、「表現運動」が学習者自身の成長や変化のきっかけになる可能性があることがわかる。

また、「コミュニケーションがとれるようになる」「協力する力がつく」「クラスの雰囲気よくなる」など、人間関係が円滑になる学習者がいることもわかる。「表現力が豊かになる」「音楽に合わせて体を動かすことが増える」など、学習者の身体表現が豊かになったことを記述した教員もみられた。

② 体育の中の「表現運動」

「表現運動」を指導する際の困難さについて

表4 「表現運動」の授業を通して、児童はどのようになることが多いですか

No	回 答	回答数	カテゴリー	肯定的 (a) ・ 否定的 (n)
1	表現力が豊かになる	2	表現	a
2	徐々に自分の気持ちを表すことができるようになる	4	表現	a
3	自分を素直に表現できる		表現	a
4	グループ活動によってまとまり(リラックスした)が出てくる	2	人間関係・学級	a
5	クラスの雰囲気がよくなる	5	人間関係・学級	a
6	全体としてあかるくAll OK!というムードになる		人間関係・学級	a
7	コミュニケーションがとれるようになる	5	人間関係・学級	a
8	協力する力がつく	7	人間関係・学級	a
9	友達を認め合える		人間関係・学級	a
10	球技や陸上など競争では活躍できない子ができる	6	体育	a
11	体育嫌いの子を救える		体育	a
12	嫌いな体育が好きになる		体育	a
13	おとなしい子も個性を発揮できる		体育	a
14	低学年のうちは楽しんで(リラックスして)やっている	3	高学年	a
15	元気になる		学習者	a
16	活発に体を動かす児童が多くなる	2	学習者	a
17	音楽に合わせて体を動かすことが増える	5	学習者	a
18	表情が柔らかく(明るく)なっていく	10	学習者	a
19	自分の表現が認められれば進んで取り組む		学習者	a
20	ダンスを多くの人に見て頂くと、充実感・満足感を得て、子どもが少し成長する		学習者	a
21	教室の授業なのでも意見を積極的に言うようになることもある		学習者	a
22	他の教科(音楽など)でも体を動かすようになる		学習者	a
23	自分から体を動かすようになる		学習者	a
24	自分を出せなかった子が生き生きとしてくる		学習者	a
25	これを機に他の教科・活動でも進んで表現しようとする姿勢が見られる		学習者	a
26	笑顔が多くなる		学習者	a
27	音楽がなるとすぐ踊り出す		学習者	a
28	喜んで取り組む	3		a
29	楽しんで(喜んで)取り組む	4		a
30	慣れることにより、動きやイメージ(発想)が活発になる			a
31	動きが大きくなる			a
32	気持ちよさ、楽しさを感じると体が自然に動き出す			a
33	運動量がかなりあるので、やり終えると汗びっしょりになり、とても喜んでやる			a
34	特に、リズムダンスはどの学年でも楽しんでやっている			a
35	以前(20年前)の子よりも慣れていて、自分たちで創ったり生き生きと取り組む			a
36	3コマくらいからだいが乗ってくる			a
37	単元の終末では意欲が高まる			a
38	あまり動けなかった子も友達を見たり、上手な子を見たりして刺激をうける			a
39	すぐに目に見えた表現力がつくとは考えられないけれど、よい経験になる			a
40	変わらない		無	e
41	運動の鈍い子も楽しめるが、能力の高い子の方が広がりがある		体育	e
42	子どもたちにとって良ければ休み時間でも踊っていることが多いが、そうでないとあまり変化はない		学習者	e
43	気持ちが解放されている児童は表情豊かに踊るが、気持ちの向いていない子は表現が小さくなる			e
44	発表会は楽しんでる			e
45	子ども達がうまく乗ってくれば楽しさを感じ、一体感を持つことができる			e
46	勝敗のつく運動をしたがる	2	体育	n
47	楽しかったという児童は数人で、その他の子どもは球技や器械運動がいいと言う		体育	n
48	高学年になると違う領域の活動をしたがる		高学年	n
49	中学年はOKだが、高学年になると難しい	6	高学年	n
50	運動会の練習で覚えられない子は苦勞している(先生に怒られる)		運動会	n
51	運動会の練習がハードで嫌いになる子も		運動会	n
52	恥ずかしがって動けなくなる子がいる	6		n
53	恥ずかしさが先に立って取り組みに時間がかかる			n
54	恥ずかしそうに笑っている			n
55	とても楽しめる子と消極的な子の差が最後まである	3		n
56	体育館を自由に動き回らせようとしても壁に近づき立ったままという子どもが多い			n
57	動けない			n
58	自由に動くことができない			n
59	どのような動きが良いのかわからないようだ			n
60	戸惑う子もいる			n
61	良くできる児童とそうでない児童の差がひらく	2		n
62	「自由に踊る」が苦手ようだ	2		n
63	よく動くが、友達とかかわりを持たず一人で黙々と楽しんでいる。			n
64	女子が好きで男子が嫌い			n
65	グループ作りでゴタゴタすることが多い。低学年から特に表現は行っていないかなければならない			n
66	運動が好きな児童ほど、バカにしたような態度になる			n
67	乗ってくると楽しんでるが、思い浮かばないと楽しいはずの体育が苦痛のようである			n
68	リーダー任せになる			n
69	ストーリーを作りそれを演じてしまう。動きによる説明に陥る			n
70	表現が単調になる			n
71	体の使い方(バランス感覚や平衡感覚など)が上手くない児童が多い			n
72	進度には取り組むが、よりよくしようとする意欲が感じられない			n

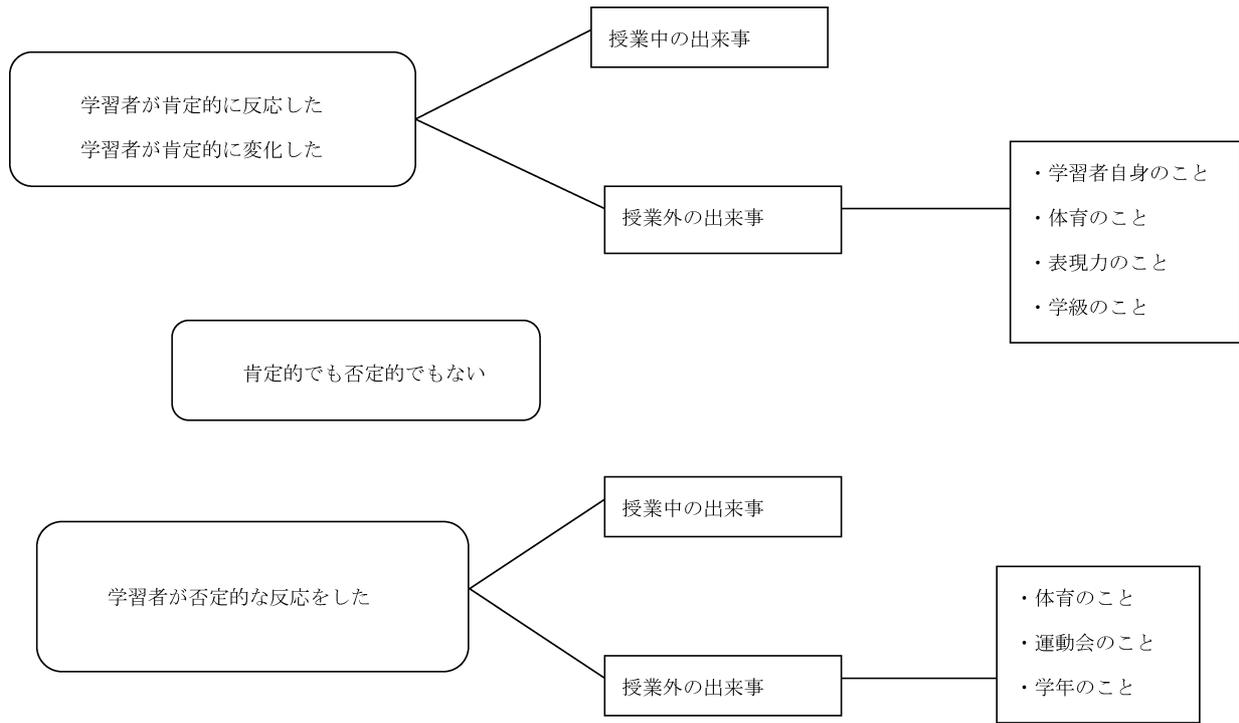


図2 指導者が学習者の活動をどう捉えたか

「表現運動」学習において、「球技や陸上など競争では活躍できない子ができる」「体育嫌いの子を救える」「嫌いな体育が好きになる」と、体育を苦手とする学習者を救えるという意見がある一方、「勝敗のつく運動をしたがる」「楽しかったという児童は数名で、その他の子どもは球技や器械運動がいいと言う」「運動が好きな児童ほど、バカにしたような態度になる」など、「表現運動」に魅力を感じない学習者の存在も多くいることが伺える。このような、学習者の否定的な反応は、少なからず教員を不安にさせる。学習者がなぜ、「表現運動」に魅力を感じないのか、その要因は様々考えられるが、今後より具体的に究明する必要があるだろう。

また、学校によっては運動会のダンスを「表現運動」学習としており、その運動会の練習でダンスを嫌いになる児童もいるという記述がみられた。運動会のダンスも、児童に経験させたい内容ではあるが、全員で合わせて踊ることが多くなるため、指導者によっては厳しい指導を行い、ダンス嫌いの児童を生んでしまう原因になることもある。このような事例も教員間で認識しておく必要があるだろう。

③ 授業中の学習者の様子

肯定的な記述をした教員は、学習者が嬉々としてよく動く様子を伝えている。一方、否定的な記述をした教員は、「恥ずかしがる」「動かない」といった、学習活動が停滞する様子を伝えている。学習者に問題があるのか、指導に問題があるのかは、今回の調査ではわからない。しかし、学習者に対して否定的な記述をした25人の教員の内15人が、「私自身がよくわかっていないので、うまく指導できない」といった、「わからない」という記述をしている。指導者が、何らかの事柄に対して「わからない」状況である場合、授業の善し悪し原因を学習者に求めてしまうのか、今回は言い切ることができないが、

今後の課題を内包している。

④ 高学年問題

低学年、中学年ではよく活動するが、高学年になると活動が難しいと記述する教員がみられる。指導者が困難だと感じる項目にも、高学年の問題はあげられていた。多くの教員がこのことを記述していることを考えると、今までも、学習者の成長に合わせた教材の開発がされてきたが、さらに検討を深めなければならない事項といえる。

まとめ

本論では、現職の小学校教員に焦点をあて、小学校における「表現運動」の指導場面で困難と感じていること、また、指導により学習者がどうなったと捉えているかを調査し、今後、教員がよりよい「表現運動」指導ができるようになるための、指導者養成の要点を探求することを目的に行われた。結果から、以下の点が今後の舞踊教育の課題としてあげられる。

- ・「表現運動」領域の学習内容の明確化と現職教員への伝達
- ・指導言語などの指導法の開発と現職教員への伝達
- ・教材のさらなる開発
- ・教員が学習者の活動を捉える時の観点

「表現運動」の学習を通して、学習者が成長していると考えている教員も見受けられた。「何を教えたらよいかわからない」指導者は、その不安から「授業を展開する自信が欠落」し、最後には「指導しない」という負の連鎖に陥ると、学習に意義を認めても実践できない状況になる。

30代男性教員は次のように記述していた。「先輩の先生の授業を見ていて、声かけ一つで子どもの様子が随分

と変わるものだなあと実感しました。いざ自分も同じようにやってみようと思うと、なかなか思うようにいかず四苦八苦することがあります。(表現方法を受け入れてあげながらも、ちょっとしたアドバイスを与えてあげ、よりよい表現へともって行ってあげることが難しいです。)」授業をよりよく変化させることができることを、小学校教員に伝えていく努力と、授業をよりよくする手段を今後も研究を重ねて行かなければならない。

引用文献

安藤幸・岡田晶子(2003)徳島県における小学校舞踊教育の現状と問題点—1991年と2001年の表現運動指導の比較を通して—。鳴門教育大学実技教育研究 13:53-65
片岡康子(2000)新時代の「表現運動・ダンス」の授業とは。体育科教育 48(10):10-13

片岡康子(1991)舞踊教育の思潮と動向。舞踊教育研究会編,舞踊学講義。大修館書店:東京 pp.112-121
松本千代栄(1980)舞踊の学習目標と内容。松本千代栄編,ダンス・表現・学習指導全書。大修館書店:東京 pp.63-76
森清・阿部正臣・梶原洋子・メ木一郎(1981)小学校助教諭の体力・技能と教科体育への意識(第5報)—表現運動の指導の実態とその意識を中心として—。文教大学教育学部紀要 15:35-48
村田芳子(2005)ダンスの授業はここが楽しい。体育科教育 53(10):14-17
村田芳子(1991)ダンスの特性と学習指導。舞踊教育研究会編,舞踊学講義。大修館書店:東京 pp.132-141
寺山由美(2005)舞踊教育における学習内容の検討—特に小学校における「表現」に着目して—。社日本女子体育連盟学術研究 22:29-38